

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書（終了）

1. 研究課題

アジアの通商ネットワークと社会秩序

A Study on the Making of Social Orders in Asian Commercial Networks

2. 研究代表者氏名

籠谷直人

Naoto Kagotani

3. 研究期間

2012年04月 - 2015年03月（3年度目）

4. 研究目的

主権国家の形成が、近代人の目標であったとするならば、そうした国家形成との関わりの薄い、あるいは国家の後援をうけない経済主体は、歴史学からは看過される傾向にあった。そして、主権国家システムが、「温帯」で創造されたものであるとすれば、「熱帯」における人々の営為も、歴史学からは看過されてきたと考えられる。しかしながら世界人口の過半は、この熱帯に居住している。そして、近年の歴史学研究は、熱帯に住む人々のなかに、世界の様々な地域から移動してきた移民が多く存在していることに注目しつつある。それでは、熱帯において、主権の後援を得ない主体は、どのような社会を形成していたのであろうか。本研究班は、熱帯の東南アジアを対象に、「移動」を「生存の戦略」に選び取った、華僑華人の動態に強い関心を払おうとしている。熱帯における生存の戦略を、歴史学から問い直したい。検討の中心に据えたい資料は、ジャワで活動した華僑華人らの公文書類である。オランダは、16世紀末に東インド（現在のインドネシア）に到着する。そして東インド会社は、華僑・華人社会との関係を維持するために、彼らのなかから「カピタン」*Kapitein*（1830年代からは、マイヨール *Majoor*）を選び出した。そして、カピタンの補佐役になった華僑華人の官吏は、リウテナント *Luitenant* からセクレタリー *Sekretaris* にいたるまで、多様な役職についた。華僑華人は、このようにして官僚組織になぞられた、自治組織たる「公館」*Kong Koan* を設置し、その生存基盤を作り上げたと考えられる。本研究班は、この公館が残した文書を通して、華僑・華人が、熱帯という自然環境や、植民地権力が創造した諸制度に対応して作り出した、社会秩序を議論してゆきたい。

Supposing that people aimed at the formation of a sovereign state in the modern era, it seems that historians tend to neglect economic actors who were less connected to the state-formation and received less supports from the state. Assuming that the inter-sovereign states system emerged from the “Temperate Zone”, it also seems that

historians underestimate human activities in the “Tropics”. However, the “Tropics” actually embraces a greater part of the world’s population. Recent research in history shows that the tropic population includes many migrants from various parts of the world. What kinds of society did they form without state’s assistance in the “Tropics Zone”? We are taking strong interests in dynamism of Chinese merchants and people who chose migration as a survival strategy, with a special reference of tropical Southeast Asia. We attempt to reconsider their survival strategy in the “Tropics” from the point of view of historical research. Our analysis is based mainly upon public records on the activities of Chinese merchants and people in Java. Holland reached the East Indies (known as Indonesia today) in the late sixteenth century. In order to maintain local connections with the Chinese there, the Dutch East India Company nominated “Kapiteins (known as “Majoor” since the 1830s)” from their communities. Chinese officials as assistants to Kapiteins took various positions ranging from Luitenant to Sekretaris. With the establishment of autonomous bodies Kong Koan like bureaucratic organization, Chinese merchants and people founded sustainable humanosphere in the East Indies. Our main discussions will concentrate upon social orders they made to acclimate themselves to the natural environment of the “Tropics” and to the institutions of colonial powers.

6. 研究成果の概要

本研究班は熱帯の東南アジアを対象にしているが、実際に取り扱う時代や地域やテーマは広いゆえに、日本史、中国史、東南アジア史、アジア建築史の研究者に参加いただいている。参加する研究者は、それぞれに歴史学の専門分野をもち、それぞれに使用する言語能力をもっている。中国語、オランダ語、インドネシア語などを駆使しながら資料調査にあたってきた経験を有する研究者を擁して、それぞれの専門の壁を低く設定している。3年間で収集した上記の文書群の分析を通して、中国が伝統的な対外政策であった「海禁」を継続するなかで、利益をもとめるアジアの商人は「港市」、「互市」の制度を作り出していたことが明らかとなった。その結果、インドから日本にまでその広がりを見せる近世アジアの交易圏の構造、そしてそのなかで、オランダの支配下にあつて生き生きと活動するジャワの華人たちの姿と彼らの「熱帯」での生存基盤をはっきり読み取れるようになった。

8. 共同研究会に関連した公表実績

国際ワークショップ「Jakarta’s Past : Space, Ethnicity and Urban Development」(京都大学人文科学研究所)2013年4月3日。国際共同研究会「Seminar on East Asian Maritime History : Asian International Trade Order and Chinese Merchants」(中国：廈門大学南洋研究院)2013年12月25日。籠谷直人・鍾淑敏編『堤林数衛文書選輯』中央研究院台湾史研究所2014年2月。国際ワークショップ「台湾銀行データベース臺灣銀行所蔵日

治時期文書 公開記念ワークショップ」(京都大学人文科学研究所)2015年3月7日。謝国興, 鍾淑敏, 籠谷直人, 王麗蕉共編 『茶苦来山人の逸話：三好徳三郎的台湾記憶』 中央研究院台湾史研究所, 2015年3月。